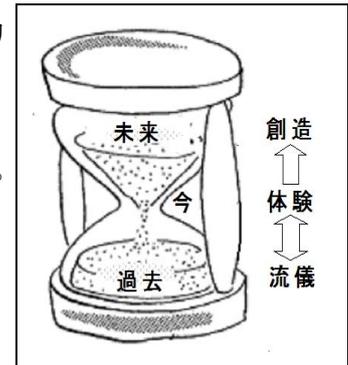


「明日への蓄え」

1. 「過去オール善」

右掲は、316号でもご紹介した「砂時計」のイラストです。時間を計る物ならば、ひっくり返すことも可能なのですが、人生という時間の流れは一方通行なのです。しかも、時間は誰にも公平に24時間しかないので。私の場合、63才になっていますから、55万時間以上も経過したのです。

平成6年に船井総研で船井流コンサルティング術を学んだのですが、その中で、講師の宮内先生が「1日働くと、今日の食い扶持と明日への蓄えが出来る」とおっしゃっていました。また、船井先生は「過去オール善」という言葉で「過去」＝「経験」の重要性を教えてくださいました。

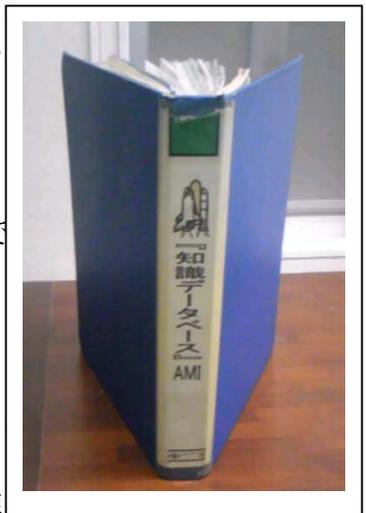


その中で、船井総研の日報に「本日のルール化」という欄があり、この気づきを文書化して蓄積することが重要だと教えてくださいました。「今」という時間を一生懸命に過ごすのは当然の事なのですが、その経験の中からルール化してKnow-How化し、Know-Whyを明確化して、さらに、Do-How化で誰でも実行できるように落とし込む事が重要になるのです。その要点は、「Know-Why」なのです。「何故」という事を腑に落ちるように明確化する事なのです。

あるお客様は、「コンサルタントはお客様から学んで経験を売って商売にしている」と指摘されましたが、まさに、その通りなのです。「事例」という経験は抽象化してもお客様の実践結果なのです。しかし、このお客様の事例をルール化できる方とそうでない者との格差がつくのです。私は、「流儀」という物は、こうした実践した結果からルール化された「知恵」だと考えています。仮に、技術者とすれば、毎日の中から得た経験に基く技術が明日への蓄えになるのです。その技術から「商品」が生まれて、また、新しい「お客様」を産み、さらに、大きな「明日への蓄積」となるのです。

2. 「Know-Why」

このように、毎日の実践から得た「経験」をルール化して「流儀」や「商品」とする事で、新しい「お客様」を得ることができるのですが、そのキーである「ルール化」を実践する事が重要なのです。私は、最低でもファイルとして記録媒体に残す事が重要だと言っています。右掲は「知識データベース」と名付けている当社のファイルです。いろいろなお客様での事例(多くはちらし)をファイルしています。この「知識データベース」のネーミングは、IBMから習ったものです。紙媒体の物をファイルする事から蓄積が始まるのです。(今はPDFで電子化しています)



次の一步は、分類化することです。「層別化」はルール化の基本なのです。同じものを集めてネーミングするのはKJ法でも実践されているルール化なのです。この層別化から新しいルール化が生まれてくるのです。業界別や技術別などの分類になってきます。このようにグループ化から生まれるルール化には、「Know-Why」が鮮明に浮かんでくるのです。「Know-How」も「Do-How」も「Why」を共有化してこそ「魂」が入るのです。実績に裏打ちされた「Why」は「事実が命令する」というように誰でも受け入れやすいのです。「Why」＝「事実」＝「実績」という関係が重要なのです。

この「Why」を考える習慣が「本日のルール化」という事なのです。私は、「花まる主義」として、今日のよかったことに「花まる」を打つようにして、その良かったことをこのようなルール化で記録して来ました。まさに、他者から学んだことを「実践」できるようにルール化するという習慣を身につけたのです。「気づき」を「行動」に移すのは「Why」を嚙締めて腑に落とすことが出来たという事なので

す。まず、自分が次の展開に「事例」として経験を活かすことが出来て「明日への蓄え」となったのです。まさに、「知識」⇒「経験」⇒「流儀」と進化したのです。

3. 「流儀」⇒「商品」

右掲は、「成功の方程式」と名付けている「4行訓」です。私は、お客様の応接室に額装されて掲示されてあったのが、最初の出会いでした。この「訓」に興味を持ちましたが、最初の「心」⇒「行動」というステップを踏むことが重要ということは直ぐに分りましたが、なぜ、多くの人は「気づき」を「行動」に移せないのか、また、「行動」に移ったとしても中断してしまうのかという事を考え続けてきました。

<p style="text-align: center;">成功の方程式</p> <p style="text-align: center;">心が変われば、行動が変わる 行動が変われば、習慣が変わる 習慣が変われば、人格が変わる 人格が変われば、天命が変わる</p>
--

現在の到達点では、「Know-Why」が浅いという事が実践力、壁突破力に欠ける大きな原因と考えています。「腑に落ちる」という状態まで追求しないで終わってしまい、2・3日すると忘れてしまうというパターンなのです。では、「なぜ、2・3日で忘れるのか」という点を追求することが重要です。この点も、私は、現時点では「ワクワク度が小さい(上辺)」と考えています。「ワクワク」は、DNAが反応している証拠なのです。「DNA」≒「経験」と出来ませんが、本当の反応すなわち生来的(DNA)な能力からのものなのか、学習して得た後天的DNAの反応なのかどうか大きな違いになります。私は、後天的な学習で得た経験というDNAの蓄積度が大きく影響すると考えています。また、その経験を磨いてレベルを高めるという循環型のDNAになって、さらに「本物」と言えるのです。

4. 蓄積的文化から循環型文化

「文化論」は余り専門的な事柄なので難しいのですが、分りやすい表現では、文化には2種類があって、ギリシャの古典的建造物のような長期にわたるストック(蓄積)文化と日本、端的には伊勢神宮のように定期的に改修を加えて長期化させるフロー(循環)文化の相違があります。後天的に学習した文化は、最近のように時代の変化が早くなると蓄積(ストック)型では直ぐに陳腐化してしまいます。やはり、循環(フロー)型で、どんどん進化していく事が重要なのです。

この事は、「過去オール善」にも適用されます。一度、築いたルール化はストックではなく、フロー型、どんどん改善や革新を加えて進化することが重要なのです。私は、「革新」を「新しい技術による変革」と定義しています。どんどん蓄積してルール化しても、時代は新しい技術を生み出して行きますので、それらの新技術を取り入れて「革新」する必要があるのです。これを怠り過去の成功に胡坐をかいていると取り返しの付かない事態になります。今の家電業界がそうであるように、過去の成功体験も、敢えて、選択と集中でリストラに追い込まれる危険性があるのです。

このように、「流儀」というものもストック型として金科玉条的に不変のものとして捉えるのではなく、時代の変化に合わせて「時流適応力相応一番」を目指して進化し続ける必要があるのです。次代を担う若い人たちは「先人の知恵」を大事にしながらも「時流適応」で進化させて、つねにリフレッシュさせる事が責務になるのです。現在のように、グローバル時代になると「蓄積」にこだわっていると陳腐化の速度に対応できなくなります。こういう面でも「10年先の未来は若者に聞け」というトヨタの教を思い出します。トヨタばかりでなく、会社の規模に関らず、若いパワーが時流感をハッキリ見据えて、DNAと反応して威力を発揮して頂きたいものです。これは、若い方々に強くお願いしたい事柄です。決して「熱しやすく、冷めやすい」というDNAを引き継ぐのではなく「人生一路」のように「一途」に循環型で磨き続けて頂きたいと願います。